

独・仏現代哲学研究会（代表：文学研究科D1 若杉直人）

研究の目的

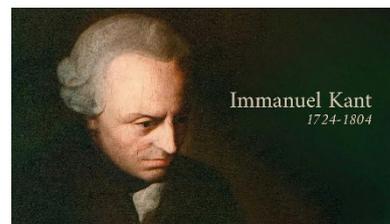
本研究会の目的は、フランス現代哲学におけるドイツ哲学の受容について研究を行うことにある。昨年度は、ヘーゲルとフランス現代哲学の関係を重点的に検討したが、本年度は昨年度よりもさらに視野を広げ、ヘーゲル以前の哲学者、あるいはヘーゲル以後の哲学者らの思想がいかにフランス現代哲学に影響を与えたかについて検討を行った。

活動の形態

本研究会は、Zoomを使用したオンライン形式で行っている。本年度は、各メンバーの興味関心があるテキストを全員で読み、担当者がレジュメを用意し、それに基づいて発表するという形態で読書会を行った。また、ドイツ哲学とフランス哲学の影響関係といった観点から、参加者らの個人研究発表も行い、ドイツ哲学がフランス現代哲学に与えた影響関係について、本研究会なりの応答を試みる。

活動内容

- ・ 読書会
ニック・ランド『絶滅への渴望』



- ・ 個人研究発表
ジョルジュ・バタイユの「聖なるもの」に与えられた二重のコンテクスト（林）
1970年代の日本におけるバシュラールの「構想力」論の展開（高畑）
ベルクソンの時間哲学について（FAN）

★参加者・研究内容★

若杉直人（代表）／文学研究科／バタイユ
高畑和輝（副代表）／先端研／表象文化論・美学
蛸子良風／文学研究科／レヴィナス
林淳／京都大・文学研究科／バタイユ
FAN Yanyang／文学研究科／ベルクソン

堀尾萌子／文学研究科／フッサール
尾崎穂／文学部／カント